

## ベスト・オブ・サポート賞について再確認

### 1. ベスト・オブ・サポート賞を実施する意義は？

- ・試合運営を支える役割の重要性を可視化  
→補助役がいなければ試合が成立しない。
- ・選手以外の貢献に価値があること。  
→「勝敗」だけではなく、大会をつくる姿勢を評価したい。
- ・大学間での協力意識  
→自チーム以外の試合にも全力で大会に携わる文化づくり

= **【大会を支える力を評価するための賞】**

### 2. 過去の問題点

- (1) 評価基準が不明確な部分があった。
- (2) 各部で統一されていない評価基準
- (3) 選手への負担

### 3. 今季からの改善点

- (1) 評価基準を明確にする。

評価基準を2項目つくり、評価させる。→各項目5点満点 計10点満点

『正確性』 役割を正しく、ミスなく遂行できているか。

ライン判定、スコアラー、JVIMS、点示など仕事にミスなく円滑に進められているか。

#### 【評価ポイント】

- ・明らかな誤りがないこと。
- ・修正が必要な場面の少なさ。
- ・ルール理解が十分であり、一貫した判断ができている。

#### 【評価目安】

- 5点：ミスがなく、安定して仕事ができている。
- 3点：軽微なミスがあるが、試合運営に支障はない。
- 1点：誤りが多く、修正が頻発している。

『態度・集中力』 試合に対して真摯に向き合っているのか。

私語やよそ見がなく、最後まで集中して試合をつくりあげる意識があるか。

**【評価ポイント】**

- ・立ち居振る舞いが適切であるか。(スマホを使用する体育館でふさわしくはない姿)
- ・リトリバーの姿勢(椅子の座り方)
- ・時間厳守(記録席前に時間通りに全員集合できているか)

**【評価目安】**

- 5点：時間厳守、終始集中して模範的な態度である。
- 3点：概ね良好であるが、集中を欠く場面がある。
- 1点：遅刻や補助役員として相応しくない態度、姿勢がみられる。

**【評価について】**

昨年と同様ファースト、セカンドレフェリーが評価  
JVIMSについてレフェリーではわからない部分がある。

そのため、追込み、訂正などがあった場合には、レフェリーが採点した後に、各部委員長の権限で1点減点とする。(追込みがあると帳票を出すのが遅くなるため)  
一言コメントを作成し、フィードバックがしやすくする。

(2) 各部で評価基準を統一

審判ミーティングにて、評価について共有の徹底  
(評価基準、コメントのお願いなど)  
できる限り毎週主務ラインにてフィードバック

(3) 選手への負担を減らす取り組み

レトリバーの際に椅子を準備  
各部にレトリバー用の椅子を準備し、統一して使用するようにする。  
(座り方にも決まりがある。正しい姿勢で使用する事)

4. 【その他】公式練習時のボール拾いについて

公式練習時にクイックモッパーの2名はボール拾いとしての参加を認める。  
また、隣接するコートへボールが入らないよう防ぐ役割はリトリバーが担うものとする。